

## 次期 SIP 制度設計等に係る有識者検討会議の設置について

令和 4 年 4 月 14 日  
SIP/PRISM 総括**1. 設置目的**

内閣府では、PD、内閣府課題担当、関係省庁、管理法人（現・研究推進法人）などの意見を聞きつつ、これまでの SIP での制度、運用面の論点を整理するとともに、次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議での検討を踏まえ、令和 3 年 11 月 25 日の CSTI ガバニングボードで、課題設定からフォローアップ体制まで SIP 全般にわたる、「次期 SIP の制度設計の方向性について」（以下「制度設計の方向性」という。）をとりまとめた。

令和 4 年度は、制度設計の方向性を踏まえ、次期 SIP の開始に向けて、各課題候補に係る FS の状況や有識者の意見なども踏まえながら、制度設計の具体化を進めていくこととしている。また、同年度に、SIP 第 1 期の追跡評価、SIP 第 2 期の最終評価が予定されており、課題ごとの目標の達成状況の評価やその要因を分析し、次期 SIP の制度設計にも活かすこととしている。

そこで、次期 SIP の制度設計の具体化に向けて、集中的に検討するため、ガバニングボードのもとに「次期 SIP 制度設計等に係る有識者会議」を設置する。

また、制度設計の方向性に掲げられた項目のうち重点的な検討が必要なものについて、委託調査を活用し検討を行うこととし、特に専門的な知見を必要とする社会実装に向けた指標の検討については専門家による分科会を設置することとする。

**2. 検討項目**

「次期 SIP 制度設計等に係る有識者会議」では、制度設計の方向性に示された 9 つの項目についてそれぞれ具体化を行う。

そのうち、以下の 3 点については委託調査を活用し重点的な検討を行うこととし、特に専門的な知見を必要とする③については「社会実装に向けた指標に係る分科会」を設置し検討を行う。

## ① P D 等に対するインセンティブやサポート体制

- ・ P D 及び S P D を始めとする、課題運営に関わる関係者のインセンティブ設計
- ・ 利益相反に関するルール整備や利益相反マネジメント体制について

## ② マネジメント体制

- ・ P D、内閣府課題担当、関係省庁、研究推進法人等のマネジメント体制の整理
- ・ 各関係者が果たすべき役割や求められるスキルについて
- ・ 各関係者がスキルを最大限発揮するための仕組みについて
- ・ 各関係者の負荷軽減に向けた対策（定常業務のアウトソース等）

### ③社会実装

- ・次期 S I P における社会実装の在り方について
- ・社会実装に向けた成熟度レベルの策定と運用について  
(BRL (Business Readiness Level : ビジネス成熟度) 、SRL (Social Readiness Level : 社会受容性成熟度レベル) 、GRL (Governance Readiness Level : ガバナンス成熟度レベル) 等)

## 3. メンバー (案)

- (1) 次期 S I P 制度設計等に係る有識者検討会議  
令和3年度の「次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議」での有識者を中心として、産学官の有識者12名程度で構成する。
- (2) 社会実装に向けた指標に係る分科会  
社会実装に向けた指標に係る専門的な知見を有するアカデミアや実際に活用を進める産業界の有識者6名程度で構成する。

## 4. スケジュール (予定)

- 令和4年5月 次期 SIP 制度設計等に係る有識者検討会議① (キックオフ、検討状況のフォローアップ、利益相反マネジメント体制の試行)  
社会実装に向けた指標に係る分科会① (指標の検討方針)  
PD 候補の決定、TF の設置、FS のスタート
- 7月 社会実装に向けた指標に係る分科会② (指標素案の作成)  
FS での指標の活用検討
- 8月 次期 SIP 制度設計等に係る有識者検討会議② (PD 等に対するインセンティブやサポート体制、マネジメント体制等の検討)
- 11月 社会実装に向けた指標に係る分科会③ (FS を踏まえた指標の検討)  
次期 SIP 制度設計等に係る有識者検討会議③ (FS、第1期追跡評価、第2期最終評価の状況を踏まえた各検討項目の中間整理)
- 12月 FS の成果とりまとめ、研究開発計画案の作成
- 令和5年1月 社会実装に向けた指標に係る分科会④ (指標及びその活用の方針)  
次期 SIP 制度設計等に係る有識者検討会議④ (とりまとめ)
- 2月 次期 SIP の運用指針案への反映 (GB 決定)